

平成24年度 第2回CCC国際関係学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年6月4日（月）10：00～12：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：林委員 佐渡友委員 多賀委員

（事務局）井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV. 議事概要

学士力実現に求められる教育改善モデルの検討

事務局より昨年度まとめた教育改善モデルを実現するための教育力について、文章化することとし、教育力を検討する経緯や背景について説明があった後、今回は「国際関係学教員の教育力」のうち、「国際関係学教員に期待される学識」についてまとめた。

（1）教育力まとめの背景、趣旨

モデルを説得力あるものにするためには、教員としての努力が必要であり、FDの実施も含めて教員の努力として戦略をどのようにするのかを検討し、まとめることを確認した。

（2）国際関係学教員の教育力

「国際関係学教員に期待される学識」

使命感、科学的な分析や問題発見・解決力、世界の流れの把握、ICTの活用能力といった視点で以下のような意見が出され、最終的に5項目にまとめた。

- ・学生に社会の問題の気付きを与えることが教育として大事。テクニックは個々の教員が考えること。
- ・個人が社会を動かす、個人の責任で社会を変えていく時代ではないか。
- ・大学は社会、地球を変革できるのではないか。大学で教員の学識を発揮してほしい。
- ・歴史の流れを知らなければならない。世界の現状を分析できなければならない。理論的に分析できなければならない。世界の課題を取り出し、解決できるような筋道を考えられなければならない。
- ・興味を持たせる、気付かせる、参加しているという意識を持たせることが大事。それには課題を与え、具体的な話をし、映像を見せ、図表で示すなど、授業の内容は抽象的にせず、具体的な固有名詞を出すなどして興味を持たせ、個人と世界との関わりをもっと実感させる。具体的なものを理論化している言葉では学生は理解できない。
- ・学生が勉強したくなるよう興味を持たせる、気付かせる。個人と世界の結び付きを気付かせ、行動させる。主体的に関与できるようにすること。
- ・国際関係学教員には強い使命感を持っていなければならない。正義のような視点を

個人が持ってほしい。

- ・ 色々な学識を公平に学び、しっかりと知っていなければならない。その上で、なぜ自分が選択したのかを学生の前で明らかにしなければならない。なぜこれがよくて、なぜこれがだめなのか明らかにすべき。
- ・ 使命感とは社会的貢献ではないか。人類の福祉という視点はどうか。
- ・ 理論的に分析できなければならない。どんな考えをもっている時も分析する時は客観性が必要。課題について科学的に分析し、解決策を示せること。
- ・ 世界の潮流を正確に把握し、かつ、我が国独自の理論にも通じて学生に示めせることが必要。日本の学生が世界的な舞台に行ったときにアメリカ流の学問だけで解決しようとしてはならない。世界には色々な考えがある。日本の哲学などもよく知っておかなければならない。
- ・ 理論、文化、哲学は国際関係学では大事なこと。この点は強調したほうが良いのではないか。
- ・ 世界の潮流も知らなければならぬし、日本の基盤に通じていなければならない。
- ・ ICT に関しては教育技法を駆使して参加させるためのツール。国際関係学は参加型。

V. 今後のスケジュール

次回は7月2日（月）10：00より開催することにし、国際関係学教員の教育力の2番目の項目である、「教育改善モデル実現に求められる教育力」について検討することにした。

以上